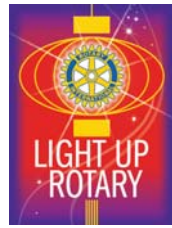




2014～15 年度
国際ロータリー会長

ゲイリー C. K. ホアン

Weekly Report Niigata



ロータリーに輝きを

2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ



2014～15 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹

新潟 RC 12 月第 3 例会 (2014.12.16) No.3068

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 高橋 秀樹会長挨拶

さて、先週は大きなニュースがいくつかありました。選挙については、これからしばらくの間日本の方向を決定づける重要なものでありましたが、ロータリークラブの世界共通の定款にありますように、政治と宗教の話題は御法度でありますので、発言は控えたいと思います。もう一つ大きなニュースだったのが、ノーベル賞授賞式でした。三人の日本人が受賞に輝いたことは、日本人として大変喜ばしいことであり、我が国の将来に明るい光を感じさせてくれた出来事でした。

ところで、このノーベル賞は、スウェーデンのストックホルムで受賞されますが、この都市には、ノーベル賞に関係するもの以外に、世界に大きな影響を与える機関があるのですが、何を思い浮かべますでしょうか。

ストックホルムには、ストックホルム国際水研究所 (Stockholm International Water Institute) があり、世界中の 2,000 人以上の専門家と 200 以上の機関が参加して毎年水問題に関する会議が行われています。みなさんご存知のように、ロータリーの重点 6 分野の中に「きれいな水の提供」があり、世界的な水問題はロータリークラブが最重要視する物の一つです。そこで、これからときどき水問題についてお話しすることにしようと思いますが、本日は、ストックホルム国際水研究所が 2012 年の世界水週間に発表したレポート 31 を取り上げさせていただきます。

このレポートは、インターネットで公開されており、PDF ファイルの形でダウンロードすることができます。遠く離れた国々とおぼしき場所の写真ばかりが掲載されており、あまり問題の実感が湧かないかもしれません。しかし、このレポートによると、2050 年には、現在の食事の仕方ですべて世界の人口を養うのに十分な水資源はなくなっているとのことなのです。

2050 年には世界の人口は約 90 億に達していると予想されます。そのため、世界の食糧生産は 70% 増産することが必要だとの推算がなされています。ところが、現在、発展途上国と言われる国々は、急速に食事の欧米化が進んでいます。つまり、肉の消費量が世界的に増大しています。西洋型の食事では、動物性タンパク質で 20% のカロリーを得ていますが、例えば 1kg の食用牛肉には、牛が飲む水、牛が食べる穀物や草を育てるために使われる水、加工や流通の過程で使われる水など

全て含めると、約 16,000 リットルの水が投下されており、同じカロリーを摂取することのできる穀物の生産の数倍になります。しかし他方、現在の技術で人類が使用できる地球上の水は限られており、地球が保有する水の総量である約 14 億立方キロメートルのうちの 0.01%、約 0.001 億立方キロメートルに過ぎません。ここから日常用水を始め、エネルギー用水、工業用水等々を差し引くと、食料生産用に使用できる水量では、90 億人が動物性タンパク質で 20% のカロリーを得ることは（少なくとも現在の技術では）絶対に不可能なのです。90 億人が生きていくことができる食料を地球上にある水を使って生産していくためには、肉は日々の摂取カロリーの 5% を超えるべきではなくなるそうです。これは事実上、人類全体がベジタリアンになることを意味します。

しかしこれはあくまでも机上の計算であって、現実には、二つの理由から無理があります。第一に、肉には人間が生きる上で必要なアミノ酸が含まれており、食べないわけにはいかないからです。最近ではアンチエイジングに効果があるとも言われ、高齢者の施設の中には、積極的に肉食を進める事によって、居住者の健康増進効果をあげているところもあると聞きます。水問題は、人間が健康的な食生活を送る上で解決しなくてはならない問題なのです。第二に、世界の国々の経済格差はあまりにも大きく、それが直接水資源の消費量に直結しているからです。現在、アメリカの平均的な市民は家庭消費と食生活で毎日 600 リットルの水を使っているのに対し、貧困国で生活にあえいでいる個人は 20 リットルしか使用できない状況にあると言われています。また、地球の水資源の 88% をわずか 11% の人口が消費しているとも言われています。ですから、今のままであれば、2050 年になっても、経済大国の国民はおそらく今と変わらず美味しい肉を食べて健康を維持し、他方、貧困国は今まで以上の食糧難と水不足に苦しんでいることが予想されます。

さて、では 2050 年の日本はどうでしょうか。バブル崩壊以来経済が低迷しているとは言え、世界的にはまだ経済大国の一つであり、好きなだけ美味しい肉を食べることができる国であります。しかし、2050 年のことを考えても安心していることができるでしょうか。ここで不気味な数字となってくるのが、日本の食糧自給率です。現在、カロリーベースで約 40% に過ぎません。主要穀物 5 種 (大麦、小麦、大豆、米、トウモロコシ) と畜産 3 種 (牛、豚、鶏) を始め多くの食料を輸入しており、それらに投下

されている水資源は640億トンに及びます。現在日本で穀物生産のために使用されている灌漑用水は570億トンに過ぎません。輸入されている量にすら及ばないのです。世界的な水と食料の不足は、日本にとって、肉だけの問題ではなく、食料事情全体を根底から揺るがすものとなりかねません。

そのささやかな一端ともいえるべきことが今年の出来事の中にありました。9月29日付の産経新聞ニュースによれば、コーヒー製品を扱う大手企業が次々と値上げに踏み切り、レギュラーコーヒー製品では20～30%の値上げになりました。その理由は、もちろん円安もあるのですが、レギュラーコーヒー用豆の1ポンド(453g)あたりの国際相場が、2013年の2倍近くである1.8～2ドルに高騰したことにあります。そして高騰した理由は、中国など新興国の需要が増えたこと、中米で2013年に病害が発生したこと、2014年にブラジルで旱魃が生じたことでした。コーヒーは嗜好品ですから、生活の根本に与える影響は大きくないかもしれませんが。しかし似たようなことは、今後、主要穀物や畜産品について起こらないとも限りません。かつてフランス大統領だったド・ゴールは「食糧自給率の低い国は独立国家ではない」と言いました。ずいぶん前の言葉ですが、将来に向けて改めて念頭に置いておくべき言葉かと思います。

世界の水問題は、そのまま日本の水問題であります。ロータリーの重点6分野の中に水問題があることをぜひ再認識して頂き、今後水の問題を取り上げる際には、今日のお話を思い出して頂き、たとえ遠い国に関する話題であっても、日本に直結する問題として感じて頂きたいと思います。本日の会長挨拶を終わります。

(3) ビジターの紹介

・松本 英明君(浪江 RC)

(4) ロータリーの友紹介(川崎 嘉朗広報委員長)

(5) 次年度地区役員委嘱状伝達

・横山 芳郎君 地区諮問委員
・石本隆太郎君 地区諮問委員
・得永 哲史君 ロータリー財団奨学金委員会委員、
資金管理委員長
・宇尾野 隆君 米山記念奨学生選考委員長
・吉田 和弘君 ライフ委員
・高橋 秀樹君 ロータリー財団学友会委員長

(6) 委員会報告

・樋熊 紀雄 R 財団委員長

上半期の財団ご寄付は累計で6,776ドルになりました。御祝い事などがあった時など50ドルよりお受け致しますので、引き続きご協力をお願い致します。

(7) 吉田料理研究会幹事より次回料理教室ご案内

平成27年1月28日(水) 18時～

第9回 料理研究会 テーマ:「土鍋で炊き込みごはん」
土鍋で炊くとおこげができます。お楽しみに!

参加費:3,000円 会場:新潟市中央区東幸町8-8
新潟調理師専門学校

ご希望の方は幹事・吉田までお知らせください。

kazu-y_ncts88@pro.odn.ne.jp

(8) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(樋熊 紀雄委員長)

樋熊 紀雄君 若杉 武君

米山奨学会寄付発表(徳永 昭輝委員長)

徳永 昭輝君

青少年育成基金寄付発表(山田 隆一委員長)

塚田 正幸君

(9) ニコニコボックス紹介

・樋熊 紀雄君 松本さんの微笑をみてニコニコです。

・塚田 正幸君 11月下旬に発行された「新潟のおきて」《サブタイトル ニイガタを楽しむための50のおきて》(編集新潟県地位向上委員会)を購入しましたが、読んでいたら大きな見出しに「塚田牛乳は学校給食の定番」とあり4行ほどの解説が書いてありました。ビックリしましたがうれしかったです。会社で来客の宣伝用に5冊まとめ買いしました。

(10) 幹事報告(安藤 栄寿幹事)

・地区夏期交換交換募集について

2015年8月初旬から2～3週間、ドイツへ出発する地区夏期交換学生を募集しております。派遣家庭は必ず受入家庭となって頂きます。お問い合わせは事務局までお願い致します。

・12月23日は祭日につき例会は開催されません。

・12月30日は規定休会です。次回例会は1月6日に開催致します。

(11) 卓話「忍び寄る危機―血液が足りない」

新潟県赤十字血液センター所長 布施 一郎 氏



新潟県内における現状		
平成25年(2013年)で		
赤血球 101,867単位	→	1日あたり、101,867/365 = 279 単位
血小板 197,254単位	→	1日あたり、197,254/365 = 540 単位
血漿 3,326L	→	1日あたり、3,326/365 = 9.12L
↓		
赤血球 約140人	(1人あたり2単位の献血で)	
血小板 約 54人	(1人あたり10単位の献血で)	
血漿 約 38人	(1人あたり2単位の献血で)	
計 約232人の献血者が毎日必要		

(12) 本日の出席率 72.64 %

(2週間前メーク後 93.48 %)

1月6日の例会予定

卓話「子どもセンターぽるとの活動」

新潟医療福祉大学 特任教授 新田初美氏

(県立吉田病院 子どもの心診療科)

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

新潟ロータリークラブ
社会奉仕委員会活動報告

2014年12月24日（水）開催 ロータリー保育園クリスマス訪問

12月24日（水）に毎年恒例行事のロータリー保育園へのクリスマス訪問を行いました。

当日は残念ながらホワイトクリスマスとはならず、激しい雨天となりましたが高橋会長、小飯田社会奉仕委員長はじめとする総勢11名が参加いたしました。

今回のサンタクロース役は石本隆太郎さんと田中克典さんでした。お二人ともサンタクロースになりきって、満面の笑顔の子ども達にプレゼントを渡していました。プレゼントをもらった子ども達は一人ひとり大きな声で「ありがとう」とうれしそうにお礼を言って受け取ってくれました。特に石本さんは我々も本物のサンタクロースと見間違ふほどの出来栄えでしたので、きっと子ども達は本物のサンタクロースと思ったことでしょう。プレゼントを渡し終えたあとに、子ども達からはお礼にクリスマスの歌を2曲、元気よく披露してくれました。クリスマスイブにぴったりのとても素敵な歌声でした。

その後も、2歳児、1歳児の園児たちにもプレゼントを渡すことが出来ました。

久しぶりに心が洗われるひと時を過ごすことが出来ました。この日は子ども達だけではなく、我々にとっても楽しい思い出になりました。

